

<実践報告>

読解力向上のための国語科授業における
Web 掲示板を用いた遠隔指導の効果

橋澤宏文 長野市立三輪小学校
東原義訓 信州大学教育学部附属教育実践総合センター

The Effects of Interaction on Web-based Bulletin Board
with Preservice Teachers to Enhance Children's Reading

HASHIZAWA Hirofumi: Miwa Elementary School, Nagano City
HIGASHIBARA Yoshinori: Center for Educational Research and Training,
Faculty of Education, Shinshu University

研究の目的	小学6年生の児童が説明文の要約の方法を知り要約文を書けるようになることをねらいとして、スタディノートのインターネット掲示板を用いて行われた本実践において、教育学部生と児童とのやりとりの記録を分析して、どのような成果を得られたかを明らかにする。
キーワード	国語科 遠隔授業 インターネット掲示板 スタディノート
実践の内容	教育学部生の指導による、小学生の読解力向上のためのWeb掲示板を用いた遠隔授業
実践者	第一著者と同じ
対象者	長野市立豊野西小学校6年生 (39名) 信州大学教育学部国語教育専攻学生 (20名)
実践期間	2005年6月～2005年7月
実践研究の方法と経過	児童がインターネット掲示板によって国語科の読解力向上を目的にした指導を大学生から1ヶ月間受けた。授業は、次のプロセスが繰り返されて行なわれた。 ①大学生は講座の中で小学生のための課題を吟味検討し、信州大学教育学部からインターネット掲示板に掲示した。 ②小学生は掲示された課題を小学校のコンピュータ教室で閲覧し、課題に即した解答や感想、質問を掲示した。 ③大学生は大学において小学生の解答を閲覧し、評価や解説と新たな課題を掲示した。 インターネット掲示板のシステムはスタディノートを用いた。 学習問題や回答以外にも、小学生と大学生との親睦的な内容の掲示もされた。さらに直接対面による交流学習も行なわれた。 実践後、インターネット掲示板に記録された児童と大学生とのやりとりを分析し、成果について考察した。
実践から得られた知見・提言	掲示板を用いた指導と学習によって抽出児に次のような効果が見られた。 ①普段は指示どおりに行うことが困難な抽出児が学生先生の指定どおりに解答できた。 ②普段はなかなか先生に質問できない抽出児が学生先生に質問することができた。 ③普段は困難であった例題で学んだ考え方を類題に適用することができた。

1. 実践研究の目的

児童に説明文を要約できる力をつけさせたいと願って日頃から学習方法を工夫してきたものの、効果的な方法をなかなか見つけられず悩んでいた。そうした折り、信州大学教育学部国語科の、コンピュータを用いた効果的な学習方法を学ぶ授業で、毎年小中学生を対象に行われているインターネットを活用した教育実習のような活動の、相手校を探していることを知った。これは、子どもたちが信州大学の指導を直接受けながら学習できるとともに、筆者にとっても今までの自分の指導方法とは違う方法を学べる機会であるため、大学に学習の実現を依頼した。

大学生にはスタディノートを使ってやりとりをした前例があったということであり、今回もそのようにした。

本研究の目的は、小学6年生の児童が説明文の要約の方法を知り要約文を書けるようになることをねらいとして、スタディノートのインターネット掲示板を用いて行われた本実践において、教育学部生と児童とのやりとりの記録を分析して、どのような成果を得られたかを明らかにすることである。

2. 実践の内容

2005年6月9日から7月7日までの約1ヶ月間、長野市立T小学校の6年生の1クラス39名が、信州大学教育学部国語科の教官（以下「大学教員」と称す）に指導を受ける2年生20名の学生を先生（以下「学生先生」と称す）として、インターネット掲示板を用いた遠隔授業を受けた。

2.1 授業の目的

児童が、説明文の要約の方法を知り要約文を書けるようになること。

2.2 指導者の役割分担

授業形態の構造を図1に示した。本実践の指導者は、大学教員と小学校の担任である教諭（以下「小学生担任」または「担任」と称す）および学生先生である。指導者の役割を次のように設定して指導にあたった。

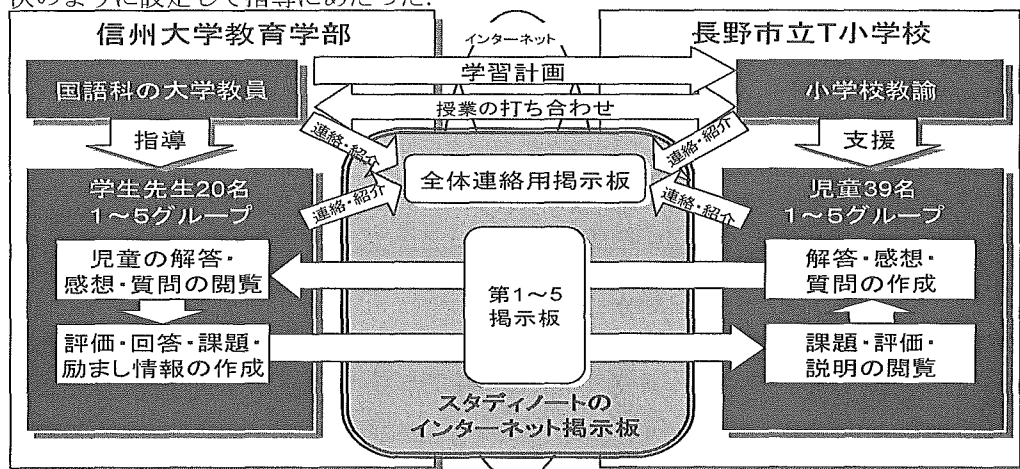


図1 授業形態の構造

(1) 大学教員の役割

学習全体を監督する立場で学習計画の立案をし、小学生担任に伝える。学生先生の指導にあたる。

(2) 小学生担任の役割

児童の学級担任の立場で、計画に従って授業が進められるように授業前に大

学教員と電子メール等で打ち合わせをする。授業中には児童の様子を観察して個別対応をし、授業後には児童の学習の様子やつぶやきや、気になった点等を大学教員に伝える。掲示板に掲示するときの題名の付け方の約束を設定するなど、スタディノートを使用した学習活動が円滑に進むための支援もする。

(3) 学生先生の役割

学生先生は大学教員の指導を受けながら、インターネット掲示板を用いて児童への指導をする。2名の学生先生が3～4名の児童を担当し、課題の提示、児童の解答の評価、児童からの質問への回答、児童への励ましや意欲付けなどを行う。

2.3 教材

グループごとの教材一覧を表1に示す。大学教員が各教科書出版社の5、6年生用教科書に掲載された説明文教材から選択決定した。教材は、各グループ内に設けられた2つの小グループごとに、1つずつ用意された。

2.4 学習課題

児童は学生先生から示された4つの課題に取り組んだ。課題は次の3つの段階に分かれる(表2)。

表1 グループごとの教材

グループ	教材名	出版社	学年
1	足跡が語る人間の祖先	大阪書籍	6年上
	砂漠に挑む	光村図書出版	6年上
2	森を育てる猟師の話	大阪書籍	5年上
	洪庵のたいまつ	大阪書籍	5年下
3	動物の体	東京書籍	5年上
	外国の人と理解し合うために	大阪書籍	6年上
4	森林の贈り物	東京書籍	5年下
	日本の恐竜時代	学校図書	5年上
5	体の中の海	学校図書	5年下
	日本語を考える	教育出版	5年下

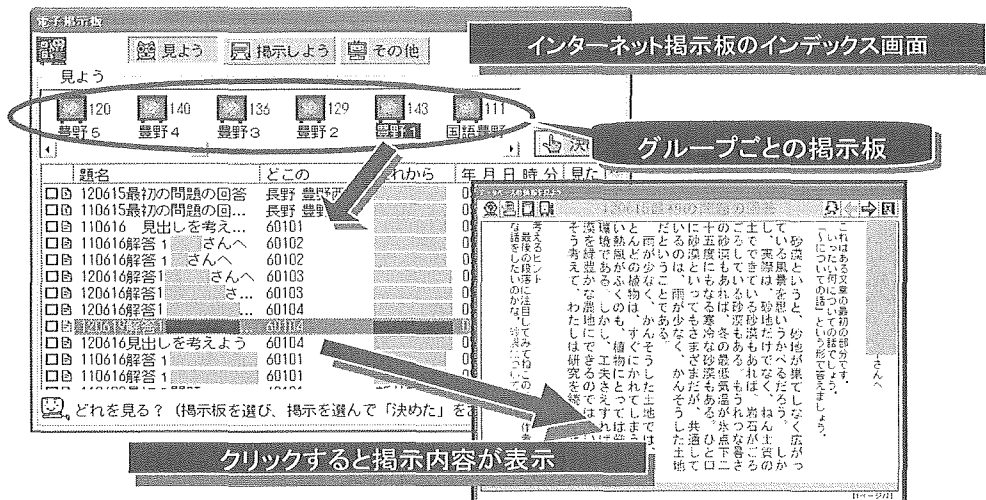


図2 学習に用いたスタディノートのインターネット掲示板

表2 児童に示された学習課題

1	第1課題	教材を読んで、「～についての話」という形で表現する
2	第2課題	繰り返し出てくるキーワードやキーセンテンスに着目して、教材に見出しをつける
	第3課題	繰り返し出てくるキーワードやキーセンテンスに着目して、教材に見出しをつける
3	第4課題	教材を300字以内で紹介する、紹介文を書く

①説明文を「～についての話」と表現する。

②説明文に見出しをつける。

③規定字数で紹介文を書く。

2.5 インターネット掲示板のシステム

授業には、学生、児童ともに使用経験を持つグループウェア「スタディノート」を用いた。図2に、実際に使用したインターネット掲示板の画面を示す。大学で学生先生が課題等を掲示板に掲示すると、大学と小学校の双方の掲示板に同じインデックス画面が表示されるようになる。児童が小学校で目的の掲示をクリックすると、学生先生の掲示を閲覧できる。児童が小学校で掲示すると、同様に学生先生が児童の掲示を閲覧でき、やりとりが実現される。

掲示板は全員が使用するものと、グループ別に使用するものの2種類、合計6つを設定した。グループごとに教材が異なっていたことと、約60名が一つの掲示板を使って学習を進めると目的の掲示を探すのに困難になっていくことが予想されたためである。

2.6 児童への事前指導

児童に、次のように大学生と国語の学習をすることの意図を知らせた。

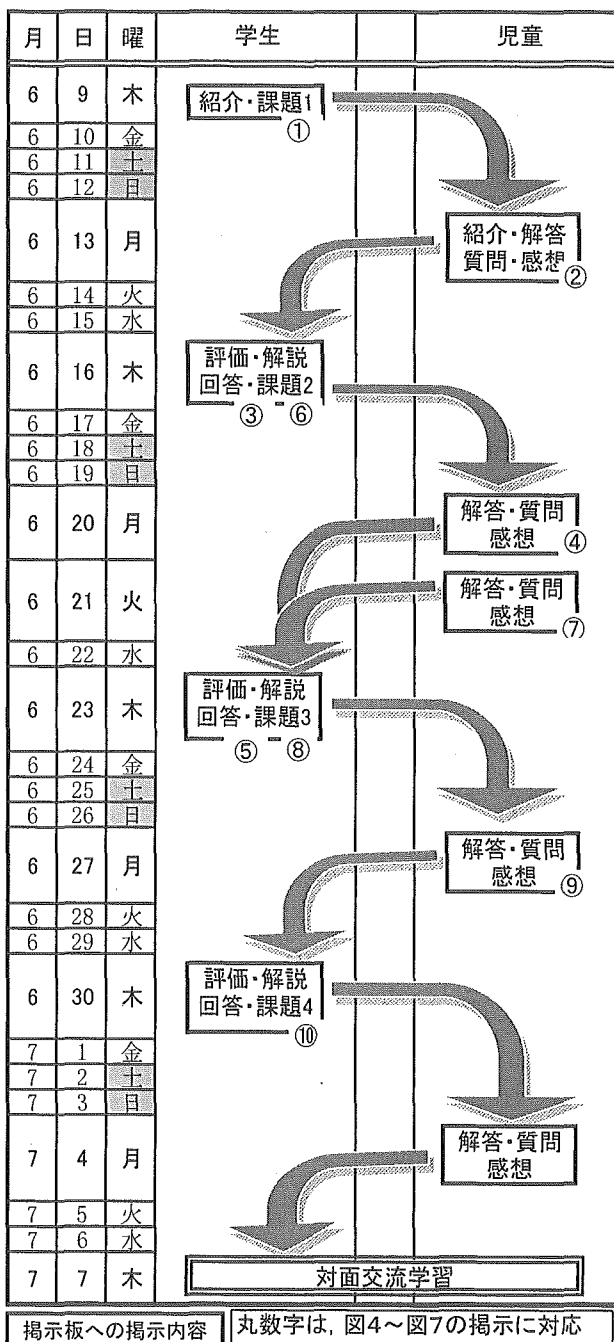


図3 大学生と小学生の学習活動の記録

①説明文の要約の方法を知って要約文を書けるようになるために、国語教育の専門家の指導を受けること。

②大学の先生方は毎回小学校に来られないので、スタディノートの掲示板を使って授業が進められること。

③恥ずかしがらず積極的に学習すると、いい学習ができること

さらに、担任が大学教員や学生先に直接対面した経験をもとに、大学の先生方の優しい

人柄や小学生との学習を楽しみにしてくれていることを児童に伝えて、児童の不安を減らしたり、意欲を高めようとした。

3. インターネット掲示板による実践の結果

3.1 学習活動の様子

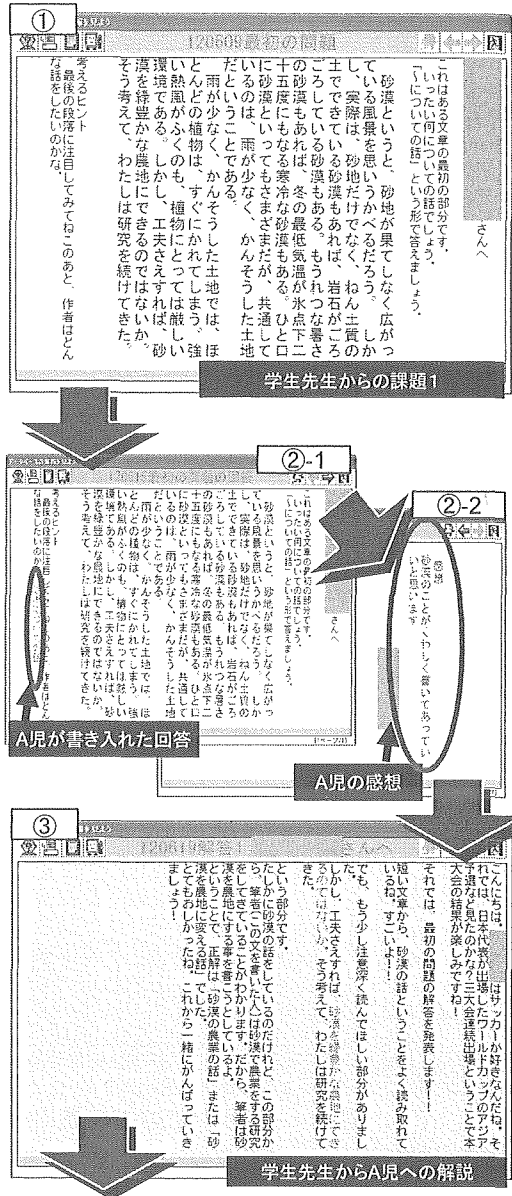
授業は、学生先生から自己紹介と第1課題が提示されることから始まった(図3)。学生先生から掲示された課題を児童が閲覧し、解答や質問、感想を書いて掲示した。学生先生は児童からの掲示を閲覧して評価し、解説や質問の回答、次の課題を書いて掲示した。学生先生の掲示は主として大学の授業日に行われた。翌週の大学の授業日までに児童が掲示した。このようにおよそ1週間単位の日程で授業が進められた。

図4に、インターネット掲示板で実際に学生先生と児童がやりとりをした画面の例を示す。示された課題(図4①)に児童が回答を書き込んだり感想を付け加えたりして、再掲示した(図4②-1, ②-2)。学生は回答の評価や解説を作成して掲示した(図4③)。

活動期間の最後には学生先生と大学教員が小学校を訪れて児童と直接対面し、対面交流学習が行われた。

3.2 掲示板に掲示された情報の数

期間中に505件の情報があり、学生211件、児童299件、大学教員2件、小学生担



図中の丸数字は図3、図5～7に対応

図4 学生先生とA児がやりとりした実際の画面の一部

① 学生先生の揭示

Aさん Bさん Cさん Dさんへ
 これはある文章の最初の部分です。
 いったい何についての話でしょう。¹「～についての話」という形で答えましょう。
 砂漠というと、砂地が果てしなく広がっている風景を思いうかべるだろう。しかし、実際は、砂地だけでなく、ねん土質の土でできている砂漠もあれば、岩石がごろごろしている砂漠もある。もうれつな暑さの砂漠もあれば、冬の最低気温が氷点下二十五度にもなる寒冷な砂漠もある。ひと口に砂漠といってもさまざまだが、共通しているのは、雨が少なく、かんそうした土地ということである。
 雨が少なく、かんそうした土地では、ほとんどの植物は、すぐにかれてしまう。強い熱風がふくのも、植物にとっては厳しい環境である。しかし、工夫さえすれば、砂漠を緑豊かな農地にできるのではないか。そう考えて、わたしは研究を続けてきた。
 考えるヒント
 最後の段落に注目してみてね。このあと、作者はどんな話をしたいのかな。

①

抽出・情報

②-1

②-2

抽出・情報

抽出・情報

② A児の揭示 1

(回答)
²砂漠についての話
 (感想)
 砂漠のことがくわしく書いてあっていいと思います。

③ 学生先生の揭示

それでは、最初の問題の解答を発表します！！
 短い文章から、砂漠の話ということをよく読み取れているね。すごいよ！！
 でも、もう少し注意深く読んでほしい部分がありました。
 しかし、工夫さえすれば、砂漠を緑豊かな農地にできるのではないか。そう考えて、わたしは研究を続けてきた。
 という部分です。
 たしかに砂漠の話をしているのだけれど、この部分から、筆者(この文を書いた人)は砂漠で農業をする研究をしてくれていることがわかります。だから、筆者は砂漠を農地にする事を書こうとしているよ。
 ということで、正解は「砂漠の農業の話」または「砂漠を農地に変える話」でした。
 とてもおしかったね。これから一緒にがんばっていきましょう！

④ A児の揭示 2

こんにちは、解答ありがとうございました。
 よくわかんなかったけどこんどからはちゃんとよく読で
 がんばりたいです。先生がおくった説明で内容がよくわ
 かりました。先生ありがとうございました。

⑤ 学生先生の揭示 3

こんにちは。
 最初の問題は少し難しかったかな。
 でも、注目している点は間違っていないから、この調子でがんばろうね。わからないことがあったらどんどんきいてください。私もわかりやすく説明できるように努力するので一緒にがんばっていきましょう！

※学生先生と児童とのやりとりの中から、課題に関わる部分のみを抽出し、横書きで表記にした。タイトル枠中の数字は揭示の順を、本文中のゴシック体は説明文を示す。下線は第1筆者による。丸数字は図3、図4に対応。

図5 課題1で学生先生とA児がやりとりをした内容

任教員3件であった。平均、学生1人約10.6通、児童1人約7.7通になる。

4. 学習記録の分析と考察

学生先生と児童が実際にやりとりをした画面に書かれた内容を、本稿で表しやすくするために、課題に関わる部分だけを抽出して横書きにし、丸数字で順序をつけて、図5から図7に示した。これらの丸数字は図3にも対応している。児童の発言

を明確に示すために、図中の文字の背景を塗りつぶしにしている。本文中の「図5②3」とは「図5②の下線部3」を意味する。

授業に用いたインターネット掲示板に保存されている学生先生と児童とのすべてのやりとりを見ると、第1課題に十分な解答をできなかったが、授業が進むにつれて正解できるように向上した児童が多く目にとまった。第1課題(図5①)は、文章を示してその見出しをつけることが課題である。「砂漠の農業の話」または「砂漠を農地に変える話」(図5③)とつけることを期待されている。この課題で、例えばA児は「砂漠についての話(図5②2)」とつけた。A児は砂漠のことは指摘できたが「砂漠の何についてか」は記述できなかった。このA児が学生先生の指導を受けることにより、第3課題(図6⑥)では根拠を示して見出しをつけることができるまでに向上した。本節では、最も学習の成果があったと思われるA児を対象にして、その成果がなぜ生じたのかをさぐるために、

<p>⑥ 学生先生の掲示 4</p>	<p>今日は、文章に見出しをつける学習です。 長い文章を読むと、どんなことが書いてあるのか、うまくつかめないことがあります。そんなとき、文章のまとまりに、わかりやすい見出しをつけておくと便利です。例文をもとにやってみましょう。 例 ここに、カードとカルタとカルテという三つの言葉がある。カードは、ふつう書き込みをして資料の整理や集計に使う、小さな紙のことであり、カルタは、百人一首のように遊びに使うもの、カルテは、医者がかん者の病気の様子を書き込む紙のことである。 この三つの言葉は、なんの関係もなさそうだが、書き並べてみると、似ている点があるのに気がつく。三つとも「カ」の音で始まる。終わりの音は、全く同じとはいかないが、「タ」行、「ダ」行の音だという点似ている。 似ているのは音だけではない。三つの言葉の指すものは、みんな紙でできている。それも、ちり紙のようなうすいものではなくて、かなり厚みのある紙である。また、ちり紙のように何も書かずに使うのとちがい、印刷したり書いたりする点も同じである。 文章に見出しをつけるときは、次の点に気をつけるとわかりやすいですよ。 ①繰り返して出てくる言葉で大切だと思うもの ②筆者が何について話をしようとしているか、書いてある文。→段落の始めのところに書いてあることが多い。 ③述べてきた内容を、筆者がまとめてある文。 それでは例文を分析してみよう。ここでは、①にあたるものは赤色で、②や③にあたる文は黒色で、どれにもあたらない文は緑色で表してみます。 (黒)ここに、カードとカルタとカルテという(赤)三つの言葉(黒)がある。(緑)カードは、ふつう書き込みをして資料の整理や集計に使う、小さな紙のことであり、カルタは、百人一首のように遊びに使うもの、カルテは、医者がかん者の病気の様子を書き込む紙のことである。 (黒)この(赤)三つの言葉(黒)は、なんの関係もなさそうだが、書き並べてみると、似ている点があるのに気がつく。(赤)三つとも「カ」の音で始まる。終わりの音は、全く同じとはいかないが、「タ」行、「ダ」行の音だという点似ている。 (黒)似ているのは音だけではない。(赤)三つの言葉(緑)の指すものは、みんな紙でできている。それも、ちり紙のようなうすいものではなくて、かなり厚みのある紙である。また、ちり紙のように何も書かずに使うのとちがい、印刷したり書いたりする点も同じである。 どうでしょう？こうすると、例文は、カード・カルタ・カルテという三つの言葉の似ている点についての内容だということがわかりますね。どこが似ているのか詳しく知りたくなったら、緑色の部分を読めばいいわけです。 見出しの場合、右のような表現でもよいのですが、もう少し気取って、カード・カルタ・カルテ—三つの言葉の共通点—などとすると、いかにも見出しらしいですね。 さて、それでは橋澤先生から配っていただいた手元の文章をもとに、どこにどんな見出しをつけたいか、選択肢問題のかたちで進めたいと思います。 見出しを考えよう！ 〔その1〕「砂漠に挑む」の三十九ページ七行目から三十九ページ十二行目までの段落を読んでください。(右注) この部分の見出しとして一番よいと思うものを一つ選び、そのわけを書いてください。 1 1 砂地の砂漠の特徴 2 有害な塩類 3 砂漠の農地としての利点 《考えるヒント》 筆者が一番言いたいことを考えよう。</p>
------------------------	---

(注)「砂漠に挑む」の三十九ページ七行目から十二行目まで
「砂地の砂漠に關して」と、通気が良い、水はけがよい、耕しやすいなど、農地としての利点がいくつもある。農地の土は、空気をたくさんふくんでいるほどよいといわれる。畑の土を耕すのはそのためだ。また、水はけがよいと、作物に有害な塩類が土の中にたまりにくい。だから、強い日差しと、かんそうした熱風の対策さえできれば、じゅうぶん砂地の砂漠でも作物を育てることができるはずだ。
〔砂漠に挑む〕 遠山征雄著 光村図書出版6年上より抜粋

※本文中のゴシック体は説明文を示す。また説明文中の「(色名)」および、本文中の下線は第1筆者による。

図6 学生先生からA児らに提示された課題2の内容

前ページ
図6から続く

7
A
児
3

例題の問題が文がいっぱいあって最後の所がよくわからないので教えてください。

⑨ 学生先生 5
「どうでしょう？こうすると、例文は、
カード・カルタ・カルテという三つの言葉の似ている点についての内容だということがわかりますね。どこが似ているのか詳しく知りたくなったら、緑色の部分を読めばいいわけです。
見出しの場合、右のような表現でもよいのですが、もう少し気取って、
カード・カルタ・カルテ—三つの言葉の共通点—
などとすると、いかにも見出しらしいですね」
例文の最後の部分というと、この部分かな？例文の赤い字の部分(①繰り返し出てくる大切な言葉)に注目してください。そして、この場合の三つの言葉とは、カード、カルタ、カルテ、という三つの言葉のことです。ですから、この見出しには「三つの言葉」という語が入ることがわかります。
また、この三つの言葉には似ている部分があるということも何回か出てきています。ということから、この見出しができたわけです。
これで、わかってもらえたかな？もし、わからない場合はもう少し詳しくわからない場所を教えてください。
わかってもらえたら、もう一度問題をやってみましょう！

1
9
A
児
の
掲
示
4

ぼくは3番の砂漠の農地としての利点だと思います。
理由は、砂漠を緑豊かな農地にできるのであると書いてあるからそう思いました。

見出しは内容をよく読むということがよく学べました。
問題の感想はプリントをよく読んで内容を確認したらよくわかりました。

⑩ 学生先生 6
さて、前回の問題の解答です。
前回の説明はあんな感じでわかってもらえたかな？でも、Aくんの答えは見事正解でした！！よく文章を読むことができたね。そして、見出しをつけるには文章をよく読むということも、よく気づくことができたね。

※学生先生と児童とのやりとりの中から、課題に関わる部分のみを抽出し、横書きで表記にした。タイトル枠中の数字は掲示の順を、本文中のゴシック体は説明文を示す。下線は第1筆者による。

図7 第2・3課題で学生先生とA児がやりとりをした内容

第1課題から第3課題までの学習記録の分析を試みた。

4.1 A児の発言

第1課題から第3課題までにA児は4回掲示し、その分量は11行、279文字である。A児の全発言を一覧表(表3)に整理し分析した。

表3で最も頻度が高く現れるのは「よく」の単語である。「よく読んで」のように「読む」につながるものが3か所、「わかりました」につながるものが2か所、「学べました」につながるものが1か所、「わからない」につながるものが2か所である。

A児はこれまで、「わかった」と記述することはあったが「よくわかった」と「よく」を付加して表現することはほとんどなかった。しかし今回は、「内容がよくわかりました」、「内容を確認したらよくわかりました」と記述している。

「よく読んで」のように「読む」につながる記述は、「ちゃんとよく読んでがんばりたい

です」,「内容をよく読むということがよく学べました(内容を確かむためにはよく読むということが分かりました)」,「よく読んで内容を確認したらよくわかりました」とある。このように「読む」につながる「よく」だけでなく、「わかる」につながる「よく」の表現が見られ,わかるためにはただ読むだけではなく,「よく読む」ことが必要だということをA児が学んだことが明らかになった。

4.2 本実践と普段の一斉授業でのA児の違い

A児の担任にとって, A児と学生先生とのやりとりの記録は驚くべきものであった。なぜなら普段のA児への印象とは異なる印象を与えるものだったからである。その異なっている点を次に述べる。

(1) 指定どおりに解答した

A児は, 例えば「二つの答えを書きなさい」という指示に対して1つしか書かないなど, 指定されたとおりに解答しない傾向が日常見られた。ところが, 第1課題の『「～についての話」』という形で答えましょう(図5①1)」の指定に対して「砂漠についての話」と解答した。また第3課題の「見出しとして一番よいと思うものを一つ選び, そのわけを書いてください(図6①1).」の指定に対して「ぼくは3番の砂漠の農地としての利点だと思います。理由は, 砂漠を緑豊かな農地にできるのであると書いてあるからそう思いました(図7⑨1).」と解答した。A児は掲示板上の学生先生の指定どおりに解答できていた。

(2) 自分から質問をした

A児はこれまで, 自分から担任に「これを教えてください」と言ってきたことはほとんどなかった。しかし学生先生に「例題の問題が文がいっぱいあって最後の所がよくわからないので教えてください(図7⑦).」と自分から質問を送った。

(3) 例題の考え方を類題に適用した

A児はこれまで, 例題で学んだ考え方を類題に適用することがなかなか困難だった。第2課題で解答できなく, 学生先生に「例題の問題が文がいっぱいあって最後の所がよくわからないので教えてください(図7⑦)」とたずねてきたA児に対して, 学生先生は見出しをつけるためにはどこに注目すべきか, その考え方を具体的に示した。それを讀んだA児は, 本文中に繰り返し出てくる大切な言葉に注目するという考え方を適用して, 適切な見出しをつけることができた。

5. まとめ

表3 A児の記述

No	図番	記述
1	図5②	砂漠についての話
2		砂漠のことがわしく書いてあっていいと思います。
3		こんにちは, 解答ありがとうございます。
4	図5④	よくわかんなかったけどこんどからはちゃんとよく読でがんばりたいです。
5		先生がおくった説明で内容がよくわかりました。
6		先生ありがとうございます。
7	図7⑦	例題の問題が文がいっぱいあって最後の所がよくわからないので教えてください。
8	図7⑨	ぼくは3番の砂漠の農地としての利点だと思います。
9		理由は, 砂漠を緑豊かな農地にできるのであると書いてあるからそう思いました。
10		見出しは内容をよく読むということがよく学べました。
11		問題の感想はプリントをよく読んで内容を確認したらよくわかりました。

本研究の目的は、説明文の要約文を書くことをねらいとして実施されたインターネット掲示板を用いた授業の記録を分析して、どのような成果を得たのかを明らかにすることであった。抽出児について、学生と児童とのスタディノートを用いたやりとりの記録を分析した結果、次のことが見い出された。

5.1 抽出児の担任が予想していた以上の次のような効果が見られた。

①普段は指示どおりに行うことが困難な抽出児が、掲示板を用いた指導と学習によって、学生先生の指定どおりに解答できていた。普段は担任からの指示は主に音声で伝えられるが、掲示板の場合には文字情報として表現されるため、理解できるまでじっくり読めたことが成果をもたらしたと考えられる。

②普段はなかなか先生に質問できない抽出児が、掲示板を用いたことにより、学生先生に質問することができたという成果が見られた。掲示板を通して自分のために温かく個別対応してくれる専属の先生の存在が、児童の行動を促したと考えられる。

③普段は困難であった例題で学んだ考え方を類題に適用することができたという成果が見られた。自ら質問をして自分のニーズに合った指導を求めた行動が、学生先生の解説を理解しようという意欲につながり、掲示板上の解説や課題を吟味して読んだことが成果をもたらしたと考えられる。

5.2 分析を通して担任は次のことに気づかされた。

本実践中は上記のような姿が抽出児に見られたが、実践後はそのような姿が見られなくなった。担任から見ると、元に戻ってしまったという印象である。これは、本実践における抽出児の学習成果が他の学習へ転移・拡大できなかったことを示しているのか、掲示板と学生先生という学習環境が整えられて初めて成立することを示しているのか、その判断根拠は現在のところ見つかっていない。

A児が実践中に見せた姿こそが本来の実力であり、本実践の環境ならば力を発揮できるが、普段の学習環境ではその力を発揮できないのかもしれない。本実践は、児童に対する担任の理解の正しさ・限界を意識させることとなった。また、その児童にとって最適な学習環境を整えることの重大さを再認識させられた。

このように、教師としての専門性を振り返る機会を与えたことが、本実践研究のもう一つの成果である。

文献

森喜世子, 南和美, 長谷川元洋, 2000, インターネット交流を生かした古典学習の授業デザインの研究―「芭蕉ネット」プロジェクトへの参加を通じて―, 日本教育工学会研究報告集 JET00-4, pp91-99

謝辞

本稿中の「大学教員」である信州大学教育学部助教授の藤森裕治先生, 国語教育分野の2年生の皆さんに感謝申し上げます。学習記録の掲載を快諾してくださったAさんとAさんの保護者, 学生の岩波亜沙美さんに御礼申し上げます。

(2006年6月30日 受付)